



「忘れたくない思い出！」

校長 小高 敏男

2月27日（金）の3・4時間目に、6年生を送る会が行われました。6年生と在校生の歌や合奏、出し物には、たくさんの思いが込められ、素晴らしい会となりました。どの学年にも「感謝」「応援」「責任と決意」などの思いがいっぱい詰まっていました。きっと、いつまでも6年生の心の中に残る会になったと思います。在校生の記憶にも残り、「6年生のように頑張ろう」という成長への力になることでしょう。

卒業や進級のこの時期に、人の『記憶』や『思い出』について考えてみました。

私は、子供の頃から川越に住んでいます。先日、川越の町を散歩している時に、ふと自分が通っていた幼稚園があった神社の境内を通りました。今はもう幼稚園は移転して無いのですが、神社の境内で運動会をした場面や、幼稚園の庭で遊んだり体力テストをしたりした場面を映像と共に思い起こしました。運動会では、鼻を擦りむいて絆創膏を貼っている自分の姿を思い起こしました。私の姉は「恥ずかしい」と言っていたのですが、私は「勲章だ」と別に恥ずかしくないと考えていたことも思い起こされました。砂場で遊んでいる時には、先生に褒められたくて、一生懸命に後片付けをしている自分や一緒に片付けをしていた友達がいたことを思い出しました。友達の顔は覚えていないので、関係性は希薄だったのかもしれませんが。先生の顔は覚えています。そういった記憶が、映像と共に無意識によみがえってきたのです。記憶の中には、思いや価値観、考えていたことまでもが含まれています。私は、映像型の人間のようなようです。だから、記憶を場面ごとの映像で思い出すことが多いと感じています。

私の家族には、文字型の人間もいます。日記などの文を綴って記憶しています。人によって記憶の仕方が違うようです。また、匂いや肌で感じる風、温度、音など、記憶を思い起こすきっかけとなる感覚も様々です。五感が記憶と関係していることは、よく知られています。

思い出や記憶は、ふとした時によみがえります。過去と同じような場面に遭遇した時や自分が苦しい時に、思い出や記憶が役に立つことがあります。楽しかったあの日のことを思い出して気持ちが楽になることがあります。それは、無意識に人が調整する能力なのかもしれません。思い出や記憶が、力を与えてくれたり、解決策の糸口を見出してくれたりします。

卒業や別れの多いこの時期に、「忘れたくない」と願うことがあると思います。忘れないようにするにはどうしたらよいのか。映像でも文字でも、五感のどれでもかまいません。複数でもかまいません。忘れたくないことを自分なりに、詳しく場面を思い起こしたり考えたりすることが大切です。一人ではなく、友達と語り合うことも強い記憶となります。家族と話してもよいでしょう。忘れたくない思いが強ければ強いほど、考えたり浸ったり思い浮かべたりすることが繰り返され、強く記憶に残るのでしょう。

時には、思い出は現実よりも美化されることもあります。思い出した時に考えたり思ったりしたことが、自分の記憶に追加されるからかもしれません。リアルタイムのその場面では考えが及ばなかったことや知らなかったことに気付いて、記憶に追加されることも多いと思います。だから、思い出を美化することは悪いことでもないと思うのです。思い出の変化は、自分が思い出を成長させたとも言えるでしょう。「思い出は、自分の中で育つ」とも言えるかもしれません。

6年生の皆さんには、忘れたくない今この時を、しっかりと記憶して卒業してほしいということを伝えたいと思います。どう記憶するかは一人一人それぞれでよいと思います。未来の自分たちのための記憶でもあります。